



【開催報告】

日本学術会議公開シンポジウム

「多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム： 研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割」

2025 年 1 月 24 日、岡山大学創立五十周年記念館（オンライン配信を併用）にて、若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会および一般社団法人研究基盤協議会主催の公開シンポジウム「多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム：研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割」が開催されました。本シンポジウムでは、技術職員や URA 等の研究マネジメント人材の活躍促進に向けたパネルディスカッションを実施し、セクターを超えて取り組むべき解決策を議論しました。

シンポジウムは小野 悠氏（豊橋技術科学大学准教授／連携会員・若手アカデミー代表）の開会挨拶で幕を開け、若手アカデミーの活動について、小川剛伸氏（京都大学助教／連携会員・若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会委員長）が紹介しました。

パネルディスカッションでは、小野 悠氏のモデレーションのもと、河岡慎平氏（東北大学准教授・京都大学特定准教授／連携会員）、川口慎介氏（海洋研究開発機構主任研究員／連携会員・若手アカデミーワーク・ライフ・バランス分科会委員長）、門田有希氏（岡山大学教授／連携会員）らが登壇し、研究者、技術職員、政策立案者の各立場からの意見交換と議論が行われました。特に、「研究者は、どんな技術職員像を望んでいるか？」、「チーム型研究を実現する重要性」、「技術職員の育成と流動性」、「技術職員を巡る評価の問題」、「好事例の横展開の重要性」、「マネジメント人材のライフを尊重した制度設計」、「機関・セクターを超えて解決策を議論・発信することの重要性」について、白熱した議論が行われ、具体的な解決策の提言を目指しました。

小川剛伸氏らによるシンポジウムの総括では、「これまでに前例がないからうちの大学ではやらない」ではなく、皆で知恵を絞り、各セクターが対話をしながら、常識にとらわれることなく果敢にチャレンジしていくことの重要性が確認されました。閉会挨拶では、今後に向けた決意が改めて表明されました。本シンポジウムは、研究者、技術職員、政策立案者が一体となって、今後の学術を担う優秀な研究者・技術職員・事務職員・URA等の研究人材を育成していくための貴重な場となりました。



シンポジウムの様子